

とうり さと

桃李の里

福島市立中野小学校 学校だより

令和3年12月23日発行 (No. 24)

文責：校長 白土 勲



第2学期終業式



第2学期の終業式を迎えることができました。これも偏に保護者の皆様の御協力のお陰と心より厚く感謝申し上げます。

昨年度実施できなかったことが、少しずつできるようになってきたことは、子どもたちにとっても、保護者の皆様にとっても大きなことだと思います。特に、宿泊活動を実施できたことは、子どもたちにとって、大きな喜びだったのではないのでしょうか。

宿泊活動で印象に残っているのは、困っている人を助ける子どもたちの姿です。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を考えなければならない状況の中、自分のことを考えるだけでも精一杯なのに、困っている人に手を差し伸べ助けてあげようとする子どもたちの姿に感動しました。

保護者の皆様の愛情たっぷりの子育てがベースとなって、子どもたちのよさに益々磨きがかかっているのだと思います。

冬休みは、御家族で過ごすことが多くなるかと思えます。今年一年を振り返る際には、御家族お一人お一人が頑張ったことを話題に出しながら、笑顔で新しい令和4年を迎えていただければと思います。

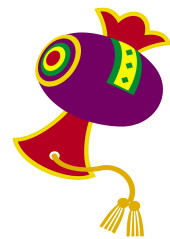
今年1年間、保護者の皆様には御理解と御協力をいただきました。改めて心より感謝申し上げます。来年もどうぞよろしく願いいたします。よいお年をお迎えください。

まあるい石

「まあるい石」という詩を紹介します。

まあるい石

まあるい石ほど
人とのあいだで
ぶつかりあったり
さびしい思いをしたり
つらかったり
涙の数だけ優しくなる
優しいぶんだけ
まるくなる
つるつる
ころころ
かどがない



先日の校長会で、元福島市立福島第一中学校長 鈴木 昭雄先生から御紹介いただいた詩です。子どもたちも、私たち大人もこの詩が伝えようとしていることを理解できたら、みんなが幸せになると感じられた詩でしたので、紹介させていただきました。